

# ○「茶産地の活性化に向けた地区連の取組

京都府和束町 東和束、中和束、西和束・湯船地区連絡会議(令和元年度第

担い手への  
農地利用の  
集積・集約化

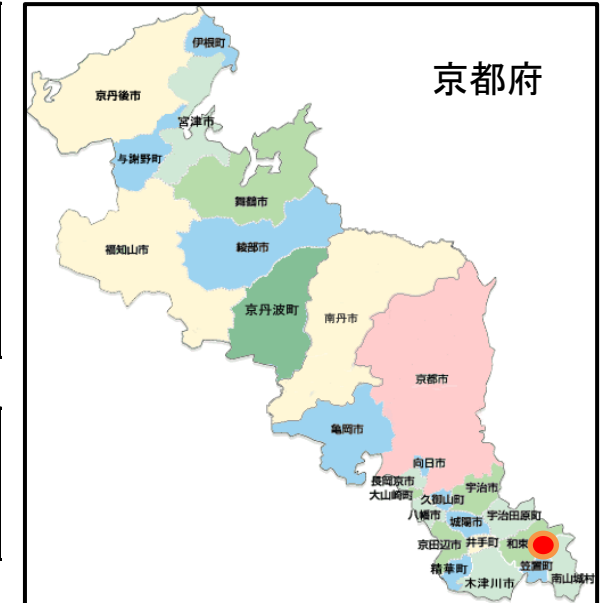
遊休農地の  
発生防止・  
解消

新規参入の  
促進

その他  
(農業委員会の  
体制強化等)

## 1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 令和1年9月10日
- 場 所: 和束町社会福祉センター
- 出席者: 委員12人、推進委員4人、事務局3人  
農業会議2人
- 報告者: 森嶋 徹 農業会議現地推進役



## 2 地区の特徴、状況、課題

- 急傾斜地に広がる緑茶栽培を中心とした中山間地域農業。
- 大規模な緑茶を栽培する中核的な農家と小規模に茶と水稲を栽培する兼業農家が混在。
- 所得の減少と後継者不足に悩んでいる。

## 3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 今回は、農業会議多田課長に出席を頂き「地区連」の進め方の実践をした。  
3地区のグループ毎に集まり、①地区内にある農地に今後の将来において耕作する人の有無を色分する「人の地図」②農地の優劣等による「土地利用の地図」をどのように作るかをワークショップ方式を進める。
- 初めは、「何をすれば良いのか分からない。」「何からすれば良いのか分からない。」「何の目的なのか分からない」などで混乱していたが、段々に時間とともに話が進んできてグループに活気がでた。
- 時間切れで農地地図の作成にまで至らなかったが、何かしらの達成感を得たようにも見られた。
- 最後に多田課長から今後の地区連の活動として①地区連のリーダーの確認②地図の作成③スローガン実現のための活動④地域や担い手の支援などを依頼。今日の地区連の目的は、農地地図の作成により人と農地の動向が見えてくる。「栗山会長の談」の説明に加えて、今後は、農業だけでなく地域や村のことをどうするのか考えて行かなければならないかの重要性を説明した。

## 4 活動結果

- 情報・意見交換 2 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援